

第5章 現職教育

1 研究主題

研究主題 自ら学び、学習のねらいを達成できる児童の育成

2 研究の具体

○研究主題設定の理由

昨年度の研究主題「思いを伝え合い、主体的に学ぶ子をめざして一考えを関連付け、根拠や筋道を明確に表現する力の育成」のもと、本校では、具体物や式、図、資料、学習用語等を用いた説明や記述の充実、見直し・修正の場の設定、学習方法や学習形態、学習ツールを選択できる環境づくりに取り組んできた。その結果、根拠をもとに自分の考えを表現したり、自他の考えを関連付けて深めたりする姿が見られるようになってきた。

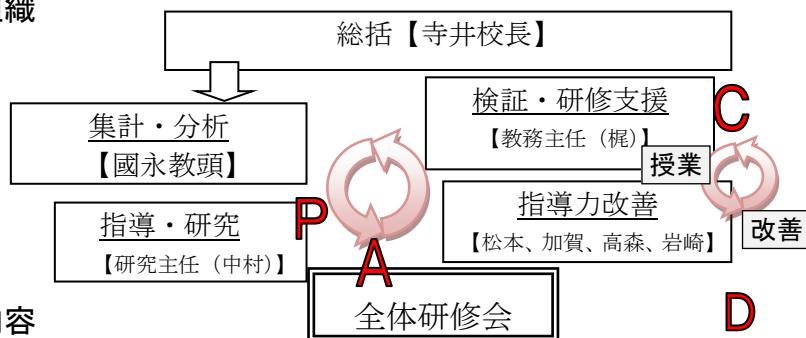
一方で、課題に対しては真面目に取り組むものの、学習の見通しや目的を十分に意識し、自ら学びを進める姿には課題が見られる。また、根拠を適切に選択・活用し、筋道立てて表現する力にも個人差があり、さらなる育成が必要である。これらの背景には、学習のゴールや目的の共有が十分でないことや、見通しをもって学習を進める経験の不足があると考えられる。

そこで今年度は、研究主題を「自ら学び、学習のねらいを達成できる児童の育成」と設定した。目指す児童の姿を、見通しと目的をもって学ぶ姿と、課題解決の方法を自ら決定し実行する姿とし、主体的に学びに向かう力の育成を図る。そのために、単元のゴールを明確にして見通しや学習の目的を共有するとともに、課題解決に必要な既習事項の掲示や学習ツール、学習形態を工夫した環境を整えることとする。これらの取組を通して、児童が自ら学びを調整しながら、ねらいの達成に向かう姿の実現を目指す。

○目指す児童の姿

- ・学習の見通しをもち、目的をもって学習している姿
- ・課題解決のための方法を自分で決定し、実行している姿

○研究組織



○研究内容

(1) 授業づくり

上戸小授業スタイルの共通実践 ※複式だけでなく単式授業でも学びの4段階をもとにした授業構成により児童の主体性を高める。

「つかむ」…既習内容の比較・活用、学習計画をもとにした課題の把握
単元のゴールを明確にし、見通しと学習の目的を共有する。

「考える」…相手を意識し、簡潔に自分の考えをまとめる。

「深める」…自分の考えを表出（相手に伝わるように）し、考えを深める。
環境を整える（既習掲示、学習ツール、学習形態）

「活かす」…学習を自分の力でまとめる。学習をふりかえる。

（低…キーワードで、中…書き出しに続けて、高…自分で）

(2) 基盤づくり

①学習規律や学習習慣の確立 ⇒上戸小学習のルールの毎月のチェック

- ・相手を意識した話し方、聞く姿勢の確立

②家庭学習の充実 目標時間：低学年30分 中学年40分 高学年60分

- ・自学ノートの取り組み：授業とリンクした家庭学習

③朝学習の取組（8：10～8：25）月・金：言葉・読書 水：計算チャレンジ 木：漢字チャレンジ

④国語検定、算数検定の実施⇒年2回（長期休業後）の実施

⑤読書活動の充実⇒目標年間100冊（基準1学期30冊・2学期40冊・3学期30冊として検証する）

⑥短作文の取組、作文ノートの活用